

秋冬に多くみられる子どもの感染症



幼児発達支援室　看護師

◆インフルエンザ◆

突然高熱が出て、頭痛、咳、鼻水、関節痛が数日続きます。潜伏期間は１～４日です。せき・くしゃみ・鼻水などからの飛沫感染、唾液・嘔吐物からの接触感染です。

手洗いや手指消毒・マスクをして部屋の換気（１～２時間毎に５～１０分、または常時換気）を行い、湿度５０～６０％、室温１８～２２度を保ち、免疫力を高めるために栄養と睡眠をたっぷりとるようにしましょう。

検査は、発熱等の初期症状が出てから１２～４８時間以内に行うと、正確な結果が出やすいといわれており、発症後７２時間以内に抗ウイルス薬を服用することで症状が早く和らぎます。

※　インフルエンザの登校・登園・登室許可が下りるのは、「解熱後３日（学童期以降は２日）経過していること」「発症後５日が経過していること」の２つの条件を満たす必要があります。（発症した日を０日目とします）登校・登園・登室時には、「インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症　登校・登園・登室届」が必要となります。

◆新型コロナウイルス感染症◆

発熱、のどの痛み、咳、鼻水、倦怠感などの風邪やインフルエンザに似た症状が多いです。無症状のまま経過する場合があります。潜伏期間は１～５日（平均２～３日）です。

せき・くしゃみ・鼻水などからの飛沫感染、唾液・嘔吐物からの接触感染です。

手洗いや手指消毒・マスクをして部屋の換気（１～２時間毎に５～１０分、または常時換気）を行い、湿度５０～６０％、室温１８～２２度を保ち、免疫力を高めるために栄養と睡眠をたっぷりとるようにしましょう。

※　新型コロナウイルス感染症の登校・登園・登室許可が下りるのは、「発症後（無症状の場合は検査日から）５日経過していること」と「症状が軽快して１日が経過していること」の２つの条件を満たす必要があります。（発症した日を０日目とします）。登校・登園・登室時には、「インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症　登校・登園・登室届」が必要となります。

高熱が出て欠席した翌朝、熱が下がっていても一日自宅で様子をみてください。

子どもの場合、夕方になると熱が上がってくるケースがよく見られます。



◆感染性胃腸炎◆

下痢・嘔吐がひどく、腹痛・発熱を伴います。潜伏期間は１～３日です。症状がひどく、また周囲の感染状況により、医師に「感染性胃腸炎」と診断された場合は、必ずひよこにご連絡ください。

水や食品をとおした経口感染や、接触感染、便や空気中に舞ったウイルスを吸い込む空気感染で広がります。石鹸をつけた手洗いで予防しましょう。

嘔吐下痢した場合は、次亜塩素酸ナトリウム水溶液０．１％（ハイターやブリーチなどを薄めたもの）で周囲を消毒しましょう。アルコール消毒は効果がないので注意してください。また、脱水にも注意しましょう。

嘔吐・下痢の時使用する消毒液の作り方

５００ｍｌペットボトルと家庭用塩素系漂白剤（キッチンハイター）を使って作ります。

（次亜塩素酸ナトリウム　キッチンハイター使用）

用途	使用濃度	作り方
嘔吐物や便の処理	０．１％	５００ml ペットボトル 1 本の水に原液１０ml(ペットボトルのキャップ２杯)を入れ、よく振って混ぜ合わせる。
ドアノブや便座、床	０．０５％	５００ml ペットボトル 1 本の水に原液５ml(ペットボトルのキャップ１杯）を入れ、よく振って混ぜ合わせる。



消毒する際は、布に次亜塩素酸ナトリウム液を浸み込ませてから、使用すると便利です。

登室時には、保護者が記入した登室届が必要になります。登室可能な基準は、「発熱がなく、嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること」となっております。

※　嘔吐処理セット

使い捨て手袋（多めに入れておくとよいです)、ペーパー類（キッチンペーパー)、大きめのごみ袋２、３枚、汚れた衣類を入れる袋、使い捨て防水シーツ、消毒液（次亜塩素酸ナトリウム）

◆溶連菌感染症◆

高熱、のどの痛み（扁桃腺炎)、腫れ、化膿、首のリンパ節炎を伴います。２～３日たつと細かい発疹が出て、舌が苺状になることもあります。治った後は手や足の皮膚が白くむけることもあります。潜伏期間は２～４日で、飛沫感染、接触感染、経口感染で広がります。

◆マイコプラズマ肺炎◆

高熱が３～４日続き、激しい咳が数週間続きます。発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくり進行し、中耳炎、発疹等を伴うこともあります。潜伏期間は２～４日で、飛沫感染し、家族内感染や再感染が多くみられます。抗生剤で治療します。